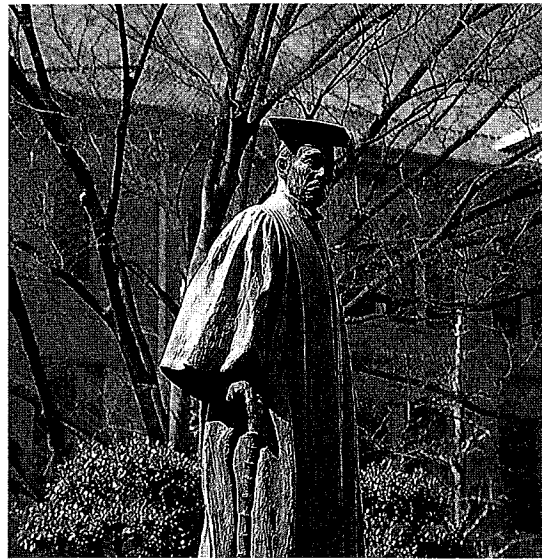


早稲田大学エクステンション講演会 校友会鹿児島県支部総会



奥島 孝康 総長



武田 勝彦 教授

奥島総長
武田教授
を 迎 え て

7月12日開催



発行 早稲田大学校友会
鹿児島県支部
住所 鹿児島市金生町3-1
山形屋本部秘書室
☎099-227-6310(代)

総長・講師紹介

奥島 孝康氏

早稲田大学第十四代総長・法学部教授 法学博士 商法(商法・経済法) 専攻。

一九三九年愛媛県北宇和郡日吉村に生まれる。県立宇和島東高校を卒業し、早稲田大学第一法学部に入學。一九六九年大学院法学研究科博士課程修了、一九七六年教授・法学博士となる。法学部長時代にはカリキュラム改革を実現し、「法律コース」「国際関係コース」「公共政策コース」の三つのコース制を導入するとともに、他大学出身教員の大量採用に踏み切った。

早稲田大学は、グローバルな視野に立ち、ローカルな野性味と行動力をもつ若者を育成することが第二世紀の課題でなければならぬと語る。また、研究・教育を活性化し、財政基盤を確立するとともに、建学の原点に立ち戻り、早稲田魂を甦らせるべきだと熱い思いを語る。

主な著書は『現代会社法における支配と参加』『成文堂』『プレッパ会社法(弘文堂)』『会社法の基礎(日本評論社)』などがある。翻訳や論文も多数ある。

趣味は山歩き。座右の銘は「自恃自信、自反自責」。早稲田大学

武田 勝彦氏

は下町の太陽であれ」と語る。

早稲田大学教授(政治経済学部)。比較文学専攻。一九二九年五月四日、東京市小石川区、永井荷風生家の斜め前、有島武郎生家近くに生まれる。子供の頃から登り降りする金剛寺坂は漱石「それから」「明暗」の舞台。少年時代から文学に親しみ、戦時中も外国語を学びつづけた。戦後マッカーサーに仕えたのは「密室のマスター・サー元帥」「別冊文藝春秋」(二二二号)に書いた通り。一九五四年上智大学大学院修士課程修

了。慶応義塾大学専任講師を経て早稲田大学政治経済学部専任講師。その後、トロント大学、ハワイ大学、インディアナ大学客員教授を務め、早稲田大学教授。川端康成、井上靖の両氏に若い頃から師事し、「川端文学海外の評価」(早大出版部)、「川端文学と聖書」、『井上靖文学』などを刊行。早稲田大学中退の立原正秋とは三十年余の友人で「立原正秋伝」「立原正秋・人と文学」「立原文学への道」「立原正秋小説事典」(早大出版部)を出版。さらに、二十四巻本の『立原正秋全集』(角川書店)全巻に解説を書いた。

スケジュール

*開催日	平成9年7月12日(土)
*場所	城山観光ホテル 〒892 鹿児島市新照院町41-1 TEL 099-224-2211 FAX 099-224-2222
*プログラム	第1部 早稲田大学在学学生父母会 (午後1時～午後1時55分) 第2部 早稲田大学エクステンション講演会 1. 映画「早稲田大学新世紀の扉を開く」 (午後2時～午後2時23分) 2. 総長挨拶 (午後2時30分～午後3時10分) 早稲田大学総長 奥島孝康 3. 講演「漱石と康成」 —薩英戦争と「生命の樹」をめぐる— (午後3時20分～午後4時50分) 早稲田大学政治経済学部教授 武田勝彦 第3部 早稲田大学校友会鹿児島県支部総会 (午後5時～午後5時55分) 懇親会 (午後6時～午後8時) 総長、講師も参加されます。
*主催	早稲田大学
*後援	早稲田大学校友会鹿児島県支部 南日本新聞社 南日本放送 エフエム鹿児島 NHK鹿児島放送局 鹿児島テレビ 鹿児島放送 鹿児島読売テレビ
*会費	エクステンション講演会 無料 懇親会費として校友・父母とも6,000円 その他事務運営費及び名簿代として1,000円
*会場	錦江の間A 父母会 映画 講演会 総会 錦江の間B 懇親会

「ノルウェイの森」の青春

鹿兒島銀行総合企画部

徳丸 武 紀

(H4年社会科学部卒業)



清々しい陽光の降り注ぐ、新緑の美しく、豊かな季節となりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

今回、「紺碧」の原稿を依頼され、早稲田を懐かしく思い返してみますと、丁度この初夏の頃の「大隈庭園」の芝生が思い出されます。確か週に二度ほど開放されていたので、あそこで読書をしたり、友人と喋ったり、うたた寝をしながら、東京のど真ん中でこんな風

にほのかな芝の匂いを感じながら、くつろげるなんて幸せだなあと思つたものです。

振り返ってみますと、あの時代というのは、自分にとって何か煮え切らない、モラトリアムな時間だったなあと思います。自分の中でやってみたい事やいろいろな思いがあったのだけれど、上手く方向づけられなかったというか……。

入学した頃、バイト先も一緒だった某サークルの先輩から、「これ読んでみて」と渡された小説があります。当時、大ベストセラーだった村上春樹氏の「ノルウェイの森」です。衝撃を受けました。全編を通して死者への邂逅に満ちた悲しい物語であるという以上に、何とも形容しがたい、いたたまれない感情が胸に残つたままで、私は自分でも単行本を購入し、何度も何度も読み返すのですが、その度に、物語への解釈が少しずつ変わってゆき、混乱に陥ってしまうのです。

久しぶりに本を開いてみますと、あちこちに赤線が引いてあったり、書き込みがしてあったりして、少々気恥ずかしくもありましたが、懐かしかったです。

あの頃の東京はバブルの最盛期で、学生だった私には少し眩しく思えるほどでした。その一方でベールリンの壁が崩壊し、東西冷戦の終結、湾岸戦争も勃発するなど、

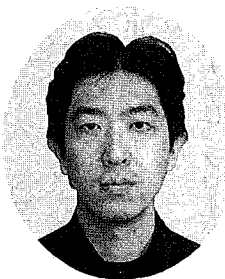
激動の時代でした。

今、私は鹿兒島へ戻り、銀行員として六年目を迎えています。営業や現在の広報の仕事に携わりながら、やはりバックボーンには早稲田で過ごした四年間があることを感じています。アンニユイだっ

インターネットの時代に……

南日本新聞社制作局

山元 卓也 (H8年理工学部卒)



たなあと思えるあの時代も、あの頃の友人も私の大切な財産です。大先輩の村上春樹氏は最近また、「アンダーグラウンド」というルポタージュを出版されました。私はまたしても考えさせられています。

それができ、またこのような話を聞くと、世界がとてつもなく近くなつたような気がする。

学生の頃、私は理工学部生だったので、本部キャンパスとはちよつと離れた大久保のキャンパスに通っていた。小さな噴水と少しの芝生があるだけであとは全部コンクリートづくめであり、まるで工場のようなところであった。講義にもろくに出席せず遊んではかいた四年間で学んだことは、親のありがたみと私自信の東京観であった。

東京の雰囲気味わいたくて、「大学は絶対に東京にするぞ」と決めていた。

日本を動かす心臓部であり、すべてはここを中心に戻っている。成功者が集う都市、そんな東京に憧れていた。上京してまず驚いたことは、規模の大きさであった。ど

こへ行っても人が多いし、町外れがない。そしているんな人がいる。東京の人は冷たいと思われがちだが、生粋の江戸っ子はとても温かく人情味がある。冷たい東京のイメージをつくっているのはそれ以外の、いわゆるよそ者である。東京に憧れ上京したよそ者が東京のイメージを捻出し、世に広め、そしてそれに憧れたよそ者がそれに殺到する。よそ者によって造られた都市は幾分表面的であり、人情味に欠けているように思う。成功者なんてほんの一握りであり、ほとんどの人がその成功者になりがみついているにすぎない。そんな東京にわずか四年で飽きてしまった。もちろん素晴らしい面も数多くあるのだけれど。

これからは国際化の時代、かつ、地方分散化の時代である。インターネットやパソコン通信といった新たな情報媒体の出現により地域間の格差が減少し、個人単位での情報発信が場所を選ばず可能となりつつある。「自宅にいなながら世界を動かす」こんな夢のような話の出現もそう遠くはないだろう。情報量が増大し細分化していくにつれ、その情報は個人の判断に委ねられる。それに惑わされなためには強い自分の信念を持つ必要があるのではないだろうか。女子学生からのSOSを冗談とは思えなかったというカナダの学生を見習いたい。

薩摩士風のルーツ

鹿児島テレビ経営企画局長
大野 達郎 (S46年法学部卒)



た兵法所で示現流の型を目の当たりにし、その後、日本各地の流儀を研究している津本さんの話を聴くことなるほどと思うことばかりだった。

鹿児島市東千石町の二官橋通りと天神馬場通りの角に、薩摩固有の剣法・示現流を伝える兵法所と歴史資料館が完成し、このほどお披露目の祝賀会があった。

以前は石堀の小屋敷とくだもの屋があったところで、門前に「東郷重位拝領屋敷」と書かれた小さな石碑があるだけだった。石碑というのは過去を語る化石みたいなもので、狭い門構えの奥に四百年余の古武道が営々と守られているとはだれも思わないだろう。どこ

こい、この屋敷の中では数百年来「東郷家だけの時間」だけがしっかり刻まれてきた。

開所記念に訪れた津本陽さんは特別講演の中で示現流について「実践剣法として戦いの呼吸をつかんでおり、日本武道の極致といえる」と解説していた。新装になっ

実は、私自身が示現流のことを初めて知ったのは大学時代のこと

で、教えてくれたのは第七次早稲田文学の編集長をしていた作家の立原正秋さん(故人)だ。鎌倉の自宅を訪問したとき、書齋の中で黒光りする木刀を手にとり、「君はこれを知っているだろう」と聞かれたが、残念ながら鹿児島

のイスの木で作った木刀のことはおろか、示現流のことさえ知らず恥じ入ったものだ。

立原さんは文壇では剣豪として知られ、その流儀は「自己流の薩摩示現流、喧嘩剣法」と笑っておられた。しかし、作家として示現流に日本人の底辺にある美学を感じていたに違いないと思う。常に襟を正して自らを厳しく律しておられた姿も、どこか示現流の精神性に通じていたように思われる。

史料によれば、示現流発祥の地は国分市の鳥越坂と伝えられる。

京都で善吉和尚から教えを受けた重位は、帰郷後ここで三年間休まず柿の木を相手に受ち込みを続け、新たな剣法を確立した。一五九〇年代、まさに十六世紀の世紀末のころである。

東郷家には、流祖・重位のころからの古文書が数多く残されている。それらは示現流が単なる武闘の技術論ではなく、極めて精神性の高い士道の世界であることを物語る。江戸時代に入って、示現流からさまざまな流派が枝分かれしていくが、薩摩の士風のルーツはまさにここにあるといっている。

薩摩の士風とは、何よりも日本の歴史を根底から突き動かすほどのエネルギー、強烈な闘争力が一番の特徴だろう。一方で、薩摩のイモ侍と揶揄されるような、野暮ったさばかりを売り物にしているようなところもある。しかし、鹿児島に生まれた示現流の神髄は武士の精神を極限まで追求した悟りの境地であり、何よりそこに至る自律自動の精神性を大切にしていることを忘れたくない。

二十一世紀を目前にした世紀末に生きる現代の薩摩人にとって、四百年前の世紀末を厳しく生き、新しい流派を創った重位から学ぶことは少なくないはずである。

1996~97 大学の主要な動き

学習機会の多様化 同志社大学との学生交流が スタート

本学から12名、同大から14名が、97年4月よりそれぞれ異なる地域風土のもとで、新たな生活体験をしながら一年間の学習活動を開始します。このような全学部生を対象とした大学間の学生交流は国内初のものとなります。

研究・教育環境のグローバル化 全学電子キャンパスをめざして

すでに全学で2万8千名をこす学生が、インターネットのWWWや電子メールを活用していますが、97年度からは新入生全員が利用登録されます。97年1月からは、学内端末以外に学外(自宅等)からも大学ネットワークへ接続し利用できるサービスがスタートし、さらに携帯情報端末をもちいたキャンパスモバイル実験も開始されています。

活発化する海外大学との 学生・学術交流

本学から海外大学へ留学する学生は年間600名をかぞえ、また世界47カ国から1000名をこす外国人留学生在がワセダで学んでおり、この規模は国内私学最多となります。海外大学との学生交流を積極的に推進しており、97年3月時点では108校と協定を結んでいます。

早稲田新世紀への前進

研究開発面における学外機関との連携を鋭意すすめており、96年6月には通信・放送機構(郵政省認可法人)とマルチメディア通信基礎技術を共同開発する早稲田リサーチセンターをオープンしました。また、文部省ハイテク・リサーチセンター事業の補助を受けて理工学研究科の新研究棟建設に着手しています。さらに、7番目となる新留学生寮が97年2月に完成したほか、西早稲田キャンパス整備としてのA棟(仮称)建設継続、新学生会館構想の推進などを着実にすすめています。

3ポイント差のストロークで勝利!

第25回早慶対抗ゴルフ大会

絶好のゴルフ日和となった25回
目の対抗戦が、高牧カントリーク
ラブにて盛大に開催された。過去
の実績は、慶応の16勝8敗と大差
がついており早稲田としては負け
られない一戦となった。総勢25名
(早稲田14名・慶応11名)と人数
では有利な早稲田は、ダブルペリ
アでのハンディをもとめせず、
3ポイント差のストロークで23回
大会に引き続きの勝利となった。

コンペ終了後、懇親会のなかで
初出場の山之内尚武氏(日本航空
空港支店支店長、狩野雅彦氏(キ
リンビール副支店長)、庄野善勝氏
(慶応・イースタン・リゾート薩摩
社長)の3名の方々の紹介があっ
た。毎度のことではあるが、勝つ

て美酒を飲み御馳走になる気分
は、いくつになっても変わらない
とつくづく感じた今回の早慶戦で
あった。

次回も(11月予定)必勝を期し
て臨む所存でありますので、多数
の御参加をお待ちしております。

幹事 大西儀朋(S59年教育学
部卒) 鹿兒島海陸運送(株)取締役

ゴルフコンペ成績表

平成9年6月1日(日) ハンディキャップ:ダブルペリア方式
高牧カントリークラブ 同ネットの時の優先:HDCCPの低い方
08:00 スタート (十若生年月日)

順位	氏名	出身校	OUT	IN	グロス	HDCCP	ネット
1	米田 秀也	K	50	52	102	30.0	72.0
2	中尾 成昭	K	45	44	89	16.8	72.2
3	春田 滋	W	43	44	87	14.4	72.6
4	馬場 弘人	W	41	44	85	12.0	73.0
5	庄野 善勝	K	51	48	99	25.2	73.8
6	石原 石	K	54	38	92	18.0	74.0
7	柴立 鉄彦	K	40	44	84	9.6	74.4
8	大西 義朋	W	41	43	84	9.6	74.4
9	小野原 健	W	48	48	96	21.6	74.4
10	増留 貴朗	W	51	54	105	30.0	75.0
11	月田 好彦	W	47	56	103	27.6	75.4
12	山之内尚武	W	50	47	97	21.6	75.4
13	八尋 雅彦	K	50	46	96	20.4	75.6
14	田中 幸夫	W	53	59	112	36.0	76.0
15	柏木 秀丸	W	43	49	92	15.6	76.4
16	吉富 信雄	K	42	44	86	9.6	76.4
17	大西 洋逸	W	45	52	97	20.4	76.6
18	吉田 守	W	44	47	91	14.4	76.6
19	久保 四郎	K	43	47	90	13.2	76.8
20	狩野 雅彦	W	49	55	104	26.4	77.6
21	岩元 恭一	K	52	46	98	20.4	77.6
22	濱田 紘一	W	51	50	101	22.8	78.2
23	秋葉 重貴	K	42	47	89	9.6	79.4
24	大津 学	W	51	49	100	20.4	79.6
25	本坊 吉朗	K	55	47	102	20.4	81.6

*早稲田:749.2ストロークで勝利 *早稲田:9勝16敗
*慶 応:752.2ストローク *慶 応:16勝9敗

*①ドラゴン 馬場(W)・増留(W)
*②ドラゴン 馬場(W)・吉富(K)
*③ニアピン 大西儀(W)・吉富(K)
*④ニアピン 大西儀(W)・吉富(K)
*⑤ニアピン 山之内(W)・柴春
*⑥ニアピン 大西儀(W)・柴春

鹿兒島県庁職員の方は、ペルー
事件報道の賑やかりし四月、東京
の外務省に研修に来ました。早稲
田の杜を後にして、十四年振りの
東京生活、東京は随分変わってい
ます。

現在は、邦人保護課に在籍、
「海外における邦人の生命、身体
及び財産の保護に関する業務」に
携わっています。もし皆様が海外
で何かトラブルに巻き込まれた際
にご関係がでるところです。海
外渡航情報や安全情報も扱ってい
ます。もちろん、ペルー事件の際
には大忙しでした。

最近、外務省から公表された「邦
人援護統計」によると、平成八年
に海外で事件・事故に巻き込まれ
た人は一万五二六一人、同年に海
外渡航した人の約〇・一%の方が
何らかのトラブルに巻き込まれて
おります。この割合が高いのか低

いのかという判断は皆様にお任せ
しますが、ここには、大規模航空



危険は手を替え、品を替え

外務省 邦人保護課

田中 瑞穂 (S57年商学部卒)

断念しなければならなかった女性
(保険から一千万円近くは充当で
きました)。アジアを旅行中
の男性が、麻薬の不法所持で逮捕
拘留(本人は、自分の知らないう
ちに買った物袋に入っていたと主張
していましたが)、裁判の結果、
何十年もムシヨ暮らし。アルプス
を夫婦水入らずの熟年旅行中の夫

けは人一倍あるほうなので、初め
ての土地でも結構一人で入り込ん
でいましたし、しかも、海外旅行
保険はいつも一番最低の価格を選
んでおりました。しかし、ここに
いて、海外でトラブルに巻き込ま
れた人のいろんなケースを見てみ
ますとやはりこれは無謀なことだ
であったと思います。

機事故から行方不明者の相談と
いったことまで、ありとあらゆる
海外での邦人に関する事件・事故
の情報が入ってきます。

が、気分が悪くなりそのまま死亡、
妻は夫の遺体とともに帰国。その
他、交通事故や強盗被害など実例
を挙げればきりがありません。

海外に行かれるときは、必ず海
外旅行保険を掛けること。そして、
自分なりにその旅行の危険度を考
慮し、それに応じた旅行保険を選
択すること。これは、自分の身を
守るだけではなく、家族、友人全
ての人の為になります。その時、
助けてもらえるのは、お金と家族
です。

長年のカナダ留学の夢がかな
い、やつと留学先に落ち着いたも
の、風邪をこじらせ集中治療室
で三ヶ月入院、治療費として二千
万円程かかり、せつかくの留学を

私自身も今まで、何回か海外旅
行の経験はありますが、いつも、
「自分だけは大丈夫!」「自分に
限って!」というような考えで行
動してきたと思います。好奇心だ

それでは、最後に標語?をひと
つ。「危険は手を替え、品を替え。
人質とはならないまでも、気をつ
けましょう海外旅行!」